

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 3070104462 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 芦辺会 | | |
| 事業所名 | グループホームあしべ (さくら) | | |
| 所在地 | 和歌山県和歌山市雄松町3丁目19-6 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年3月16日 | 評価結果市町村受理日 | 平成24年6月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070104462&SCD=320&PCD=30 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |
| 訪問調査日 | 平成24年4月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

充実した日常生活を送っていただけるように周囲にあるスーパーなどのお店や公共施設を活用しながら、入居者の方々が希望される場所にも外出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは地域の中に複数の事業を展開する法人のもとに、利用者の人権を守り、安心して地域の中で暮らし続けられるように日々のケアにあたっています。ホームは、「地域との交流を大切に みんな笑顔で過ごせる場へ ゆとりある心 ゆとりある生活をめざす」と理念に掲げて実践しています。職員は、遠出の外支援助を通して利用者から学ぶ機会を得、利用者の思いや出来る力の発見に繋がっています。日々利用者は、笑顔で一人ひとりがゆったりと安心して過ごされ、その側に職員も笑顔で寄り添っています。又、4階にラウンジがあり、カラオケや映画鑑賞、誕生会等の催しなどが行なわれ楽しみごとに繋がり、季節の花や野菜が植えられた畑を眺めながらゆったりと過ごせるスペースもあり、ほっと出来る環境が整えられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設の入り口、ユニットの入り口に掲示して職員全員が共有できるように努めている。 | 事業所の理念は、地域との交流を大切にと考え地域の中に自然に溶け込んでいく事を大切に考え作られ、玄関などに掲げています。職員は常に理念を意識し、外出の機会を多く持つなど日々のケアを心がけています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣の方々への挨拶の他、入居者と共に近隣の清掃を行ったり、地元や子ども会で開催される行事へできる限り参加している。 | 自治会に加入し、連合自治会の行事である七夕や盆踊り、文化祭では利用者の共同作品を展示するなど、積極的に参加しています。幼稚園や小学校、子ども会がホームを訪れる等の交流が持たれて、地域の溝掃除にも利用者が参加し、挨拶を交わしたり顔見知りの関係が築かれています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地元の連合自治会で開催される行事の際、事業所の説明を含め、何かあれば相談に来てもらえるように伝えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 取り組みの状況等の説明を行い、サービスの向上に努めている。 | 運営推進会議は、子ども会会長や副会長、人権委員会監査役、中学校教頭等の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。ホームの現状や行事、インフルエンザやノロウイルス等についての質疑応答など意見交換がなされ、出された意見や要望は運営に反映させるように努めています。 | 地域を代表する多くの参加を得て運営推進会議が行われていますが、更に家族の参加がスムーズに得られるような状況作りを工夫されては如何でしょうか。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村担当との連携は図れているが、積極的な働きかけまではできていない。 | 市へは成年後見制度や法令等、相談事があれば直接出向いて尋ねています。又、法人との関わりもあり、市の担当者とは良好な関係が築かれています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全職員を対象に身体拘束に関する研修を行っており、常に助言や指導を受けながら業務に当たっている。 | 法人独自の資料や行政の通達を用いて、身体拘束についての研修を実施しています。日々のケアの中では言葉による身体拘束を含め振り返りながら、身体拘束をしないケアを意識しています。玄関は防犯上電子ロックにしていますが、利用者が外に出たい様子が見られたら自由に出入りできるように支援しています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 全職員を対象に高齢者虐待に関する研修を行っており、知識や理解を深め、日頃から注意喚起しながら防止に努めている。 | | |

グループホーム あしべ（さくら）

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 実際に成年後見制度や支援事業を活用している入居者もいらっしゃるの制度については理解できている。必要性のある方については関係者と話し合いを行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者やご家族に不安感を与えないよう配慮し、十分に説明を行い納得と理解をしていただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 常に意見が聞けるよう心がけている。また、入所時に重要事項説明書に明記している外部の機関があることを伝えている。 | 面会時や電話で意見や要望を聞くようにしています。又、毎月発行している通信で利用者の様子を伝えながら意見を聞くこともあります。食事形態への意見を受けて、全ての利用者の食事状況を調べるなど出された意見は職員間で検討し、運営に反映させるようにしています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃のコミュニケーションやミーティングを通して意見を聞き、反映に努めている。 | 会議や勉強会などには意見が言いやすい雰囲気を作り努めています。遠出の外出が出来た事をきっかけに次は一泊旅行がしたいなど、職員から外出支援ついてや行事時の食事についての意見などが出され、積極的な意見交換が行い、サービスに反映しています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 理事長は管理者や他の職員と関わりを持って頂きながら、職員の状況を常に把握して様々なことについても、相談させてもらっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者が職員個々の状況を把握して報告している。 研修については、法人内で介護講習会や新人講習会を毎月開催している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 施設外での研修や講習会は情報が入り次第教えて頂いているが、実際にはなかなか参加できていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | コミュニケーションを図りながら生活歴や生活習慣などを聞いているが、認知症の症状により機会を複数回設けて行っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前に要望や不安に感じていることなどの聞き取りを行っている。また、入所前に直接施設を見ていただき生活環境や雰囲気を感じて安心していただけるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の現状と家族の意向を十分に把握、理解した上で必要に応じて他のサービスの提供を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者それぞれの生活歴や性格、身体状況を把握した上でその方に出来ること、出来るであろうことに対し常に一緒に行うことを心がけている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 全ての家族にできていないが、通院や理美容、買い物など可能な限り協力をしていただいている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入所以前に交流のあった近隣の方々に面会に来ていただいたり、買い物や外食などを取り入れながら支援している。 | 友人の訪問があったり、馴染みの美容師が散髪をしに来訪してもらっています。馴染みの場所や人との関係が継続出来るように支援しており、行きつけの理髪店や買い物に行く、百貨店や商店街等要望に沿って出かけています。家族と墓参りに行ったり、自宅に外泊して通院する利用者もおり、希望に沿った支援をしています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | それぞれの性格や関係性を把握し、円滑な人間関係が築けるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じ可能な限り行ってはいるが継続性に欠けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者一人一人と十分にコミュニケーションを図り、可能な限り意向に沿うよう援助を行っている。 | 入居前の暮らし方や生活歴を独自の用紙に記入し、センター方式のアセスメントシートなども用いながら、本人や家族の思いを把握しています。入居後は日々の関わりの中で職員間で得た気づきや情報を追記しながら把握するように努めています。把握が困難な時は、利用者の様子から思いを察するように心掛けています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族、知人や入所前に利用していたサービス担当者などから情報を得ている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 各入居者の生活リズムを確立し、その中で個人の能力を最大限に発揮できるよう現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員の意見も参考にしながら総合的に作成している。 | サービス担当者会議を開催し、職員の意見を聞き利用者や面会時に聞き取った家族の思いを反映させた介護計画を作成しています。3ヶ月に1回モニタリングを行い、見直しに繋がっています。医療にかかわる状況があれば医師の意見を反映し、必要時は都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 入居者の言動や体調に変化があった場合はその時の様子や対応を必ず記録し、職員間で共有している。また、介護計画の見直しに反映している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状況に応じ、その時々において本人または家族と相談し柔軟に対応するよう努めている。 | | |

グループホーム あしべ (さくら)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事の日程を把握し参加させてもらったり、外出の行事の計画やスーパーなどへ日常の買い物に行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 日々の体調に変化がある場合には、同法人内にあるクリニックを受診していただき必要に応じて本人と家族の希望を最優先しながら他科受診していただいている。 | 入居時に、これまでのかかりつけ医の受診が継続できる事を説明し、受診は家族が対応しています。状況によっては職員も受診支援をしています。法人内のクリニックに相談しながら個別に応じた診療科への受診支援をしています。訪問看護師は週1回の訪問があり、24時間連絡が取れいつでも相談が出来、医師との協力体制も築かれています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 同法人内の看護師や訪問看護師に対し情報を提供し、万が一の場合も含めて迅速に対応できるように体制を整えている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時、本人または家族の了承の元に情報提供を行い、適切な治療を受けられるよう連携している。また、入院中は定期的に面会したり家族から情報を得て状態の確認と把握に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 現在はそのような状況はないが、全入居者の家族に対し入所時に終末期に向けた方針について書面にて説明している。 | 入居時に、重度化対応や終末期ケア対応指針を基に、ホームの方針を説明しています。ホームで出来る事出来ない事を説明し、利用者の状況の変化に伴い、早い段階から利用者や家族、医師と話し合っています。家族の入所希望がなされる場合もあり、法人の特別養護老人ホームとの連携を取るなど支援しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルを所定の場所に保管している。またテキストを作成し全職員に配布している。法人内の講習会で研修しているが定期的には行っていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域の協力を得て避難場所は確保している。また、定期的に避難訓練を実施している。 | 年2回消防訓練を行ない、消防署の立ち会いにより夜間を想定して初期消火や避難経路や場所、通報の方法等の訓練をしています。又、緊急災害防災マニュアルに沿って研修を実施しています。自治会との話し合いで敷地外の避難場所の確認も行っています。参加には至りませんでした。ホームに隣接する住民に声をかけています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 各入居者のプライバシーを確保し、プライドを損ねるようなことのないような対応や声かけを心がけている。 | 『人権を守る事』を法人のポリシーとしており、研修や朝礼時、年度始め等、人権について考える機会を作り徹底した指導を行っています。人前でのトイレ誘導時の声かけや失敗時には、さり気なく居室へ案内しています。不適切な言動については、都度指導しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 可能な限り本人の希望を聞き取るよう努め、自分で選択できるように働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な生活習慣は確立しているが、各入居者の希望に沿って1日の過ごし方を決めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2ヶ月に1度は美容室や床屋に行っている。 衣類に関しても季節を意識した服装を選んで着ていただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 買い物、下処理、調理、片付けと個人の能力に応じて参加していただいている。 | 利用者と共に買い物に行き、利用者に野菜などを選んでもらっています。下ごしらえや米研ぎ、盛り付け、食器洗い、盆や鍋拭き等、利用者の力が発揮出来る場を多く作っています。外食やお弁当を外で食べる、鍋料理などは多種類の味や食材で楽しみ、栽培した野菜を食卓に載せる等、食事を大切な交流の場と位置付け支援しています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | チェック表を活用し必要に応じて援助している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 習慣化している方もいるが、自分でできない方については援助している。 | | |

グループホーム あしべ（さくら）

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | チェック表を活用しての声かけによる促しや、自ら希望された時に随時対応しリハビリパンツや尿とりパットの使用頻度を減らしていくよう努めている。 | 排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援をしています。行動や表情等で利用者のサインを見逃さず、さり気無く声をかけ誘導し、失敗のないように努めています。体調によりパットを使用しても体調が改善すれば布パンツに変更する等、状況に合わせ自立に向け支援しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 各入居者の食事状態や排泄状態を把握し、個々に合わせて対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 体調面を配慮した上で、できる限り希望に沿うよう努めている。 | 週3日から4日の午後を基本の入浴日とし、入浴の順番等は、利用者の希望や状況に合わせています。拒否の場合は、声かけのタイミングや時間、職員を変えて声かけをするなど工夫し、入浴に繋げています。柚湯や菖蒲湯、入浴剤を使って入浴が楽しめる様に工夫をしています。家族と銭湯へ行かれる利用者もおられ支援しています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日々の体調や夜間の睡眠状態を把握し、本人の希望や必要に応じて対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ファイルされている情報を職員が共通理解し症状の変化などに注意している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | いろいろな催しを見物に出かけたり、買い物や外食、また花見や遠足といった行事を行い楽しんでいただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 順番にはあるが、希望に沿って出かけられるよう支援している。 | 日々近所への散歩では近くの小学校や幼稚園の方まで行ったり、神社や河川敷へ出かけるなど気軽に出かけています。初詣や桜を見に行く等季節の外出を支援しています。車で遠方への外出機会をきっかけに、1泊旅行も試みたいと考えています。また、外出や散歩の為に、トレーニングをされる利用者があるなど、外出が楽しみ事となっています。 | |

グループホーム あしべ（さくら）

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 職員の見守りの中、買い物や出かけた先でおこづかいを使用している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人からの希望や家族知人から希望があればその都度援助している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 手作りのカレンダーや作品を飾ったり、花などもテーブルに飾って生活感や季節感を感じてもらえるよう工夫している。 | 畑で育てた季節の花を飾ったり、利用者が生花を活ける、共同でカレンダーを作るなど季節感を味わえる様に努めています。台所からリビングへの食事の匂いが漂う中で、利用者の笑顔や歌声利用者同士の会話等が温かく家庭的で安心して過ごせる共同の空間となっています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 4階のラウンジや中庭に椅子を設置しており、自由に過ごしてもらえるよう整備している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みのあるタンスなどを持ってきてもらい、本人の使いやすいよう配置している。 | 居室は、ベットや洗面台、クロゼット、布団は用意されていますが、入居時に使い慣れた物が持ち込んでもらうよう説明しています。テレビや洋服ダンス、コタツ、ボックス等馴染みの物を置き、その人らしい居室となる様に工夫をしています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 身体機能を活かせるような援助を行い、合わせて安全に生活していただけるよう配慮している。 | | |